

平成 26 年 8 月 1 日

京口門だより No. 10

8 月に入れば暦の上では、7 日は立秋となりますが、猛暑であったり、比較的涼しかったり、大雨が降ったり、例年になく早く台風がきたりと、異常気象が続いています。

最近ニュースで小児に使用する麻酔薬で何人も亡くなる事故や、C 型肝炎の治療薬に重篤な副作用があり、亡くなられた人もあると報道されました。薬の適正な使用を怠ったという説明がなされています。けれども、現代医学で使われる薬物は少し誤って用いると、重篤な副作用が生ずるような薬が多いのかという感想を誰でも持つと思います。現代医学では強力な薬効を求めて作り出された薬剤が、大きな力を発揮して重い病気を克服できるようになりましたが、皮肉にも副作用の面でも強力になっているといえるでしょう。

たとえば肝炎ウイルスによる B 型肝炎や C 型肝炎は、今日では強力な抗ウイルス薬でウイルスを身体から追い出すことも可能になってきました。しかし、治療に抵抗したり、薬の副作用のため十分な肝炎の治療ができない場合もあります。

漢方医学でもこうした肝炎にさまざまな薬を使ってきました。現代医学の治療ほど強力にウイルスを排除する力はありませんが、漢方薬の治療だけで大変良い経過をたどり、時にはウイルスの排除にいたることもありますし、慢性肝炎から肝硬変や肝がんへの進展を防いでくれることもあります。なかには母子感染による B 型肝炎の子供さんが、漢方薬ですっかり良くなった例もありますし、C 型肝炎から肝硬変に進み、肝がんまで起こしてきた女性の方も、漢方治療で肝がんの発症を抑え、長く元気にすごされた方もおられます。漢方ではウイルスの違いで B 型とか C 型とか分けて治療するのではなく、肝炎を起こしている人の体質とといいますか、その方の病状に応じて、黄疸傾向の強い人とか、肝炎とともに胃腸が弱い人とか、大変疲れやすい人とかを区別して、その人に適応した漢方薬を調合してゆきます。

慢性肝炎は現代医学の抗ウイルス薬による治療だけでなく、上手く漢方薬を利用していただきと思います

